

7月3日（金）米原高等学校を訪問しました！

対談テーマ

魅力ある県立高校づくり

米原高等学校は、滋賀県内でも数少ない理数専門学科を有する高校です。また生徒会執行部は、地域振興をテーマに地元企業と協働してプロジェクトを推進しました。今回の対談では、どのように魅力ある高校づくりを進めていくのか、生徒と教育委員が意見交換をし、生徒たちの思いを聞かせてもらいました。

訪問した教育委員

土井 真一 委員 塚本 晃弘 委員 森 和之 委員

校内見学



校内見学では天体観測ドームを見学しました。県内でもとても珍しい施設で、地学部の活動の拠点になっています。夏休みには学校に宿泊し、部員全員で天体観測を行うこともあります。

意見交換より

委員：米原高校はとても専門的な学習ができるのだと感じました。みなさんはどのタイミングで自身のコースを決めましたか。また、選んだコースに迷い等はありませんか。

生徒：私は中3のオープンキャンパスで地学部のことを知りました。部活の雰囲気は憧れて、この学校を選びました。

生徒：私は小さいころから英語が好きだったことが大きな理由です。英語コースの生徒の中には、英語が苦手だけど、自身の視野を広めるためにこのコースを選んだ人もいます。

委員：理数科の生徒の皆さんは理工系の大学に進学される方が多いのですか。みなさんの進路について聞かせてください。

生徒：理数科でも文系の大学に進学する人はいます。私はもともと環境問題に興味を持っていました。高校生サミットの経験を経て、そこから食について興味を持つようになり、食をテーマにした環境問題について学んでいきたいと思っています。

生徒：私は滋賀県を出て、一人暮らしをしたいと思います。また、留学したいという気持ちもあります。

生徒：高校生サミットの経験から、地元の大学で地元の特産品等をPRしたいと思っています。

生徒：地学部の活動を通じて、もっと地学について学びたいと思うようになりました。

委員：高校生サミットについて、苦労したこと、やってみて良かったことは何ですか。

生徒：準備の時間の捻出に苦労しました。私たちは生徒会が発表するため、授業時間等に準備をできないことが大変でした。しかし、知事や市長等、普段出会えない人の前で自分たちの取組を発表できたことはとても貴重な経験となりました。みんなが自分たちの発表をすごく真剣に聞いてくださったこと、そして発表後の大きな拍手は今でも忘れられません。

委員：高校生サミットのような発表の機会がもっと増えたらよいと思いますか。

生徒：そう思います。本番だけでなく、本番までの準備の時間もとても充実していました。

生徒：また、サミットを通じて他地域の高校と交流できたことはすごく良い経験になりました。このような発表の場が滋賀県全体であれば楽しいと思いました。

委員：米原高校の魅力は何ですか。

生徒：自分が好きなことをとことん追求でき、それを仲間と共有できることです。一人ひとりが興味を持っていることは違いますが、みんなが一つになったとき、すごく大きな力を発揮することができます。

生徒：周辺の環境がとても魅力的だと思います。周辺の環境を生かした授業もあります。周りのみんなも、とても穏やかです。

生徒：頑張る人、努力する人を助け合ったり応援したりすることができる場所です。生徒会の活動で大変なこともありましたが、周りが助けてくれて乗り越えることができました。入学してからしか分からない魅力があるのだと思います。

委員：米原高校の改善点はどこだと感じていますか。

生徒：冬がとても寒いので、お昼に温かいものを食べられるような自動販売機等があったらうれしいです。

生徒：交通の便が不便なところです。バスの本数が少なく、駅から歩いて移動するのは大変です。

生徒：高校生サミットのような活動がもっと拡大され、他の学校と連携して何かできるような活動がしたいです。他校と連携することで、一つのイベントが終わってもその後も関わることができると思います。

